

中学生の ICT 利活用Ⅱ パソコン・タブレット編

—モバイル利用のライフスタイル研究—

○水野 一成, 近藤 勢津子 (NTTドコモ モバイル社会研究所), 飽戸 弘 (東京大学名誉教授)

キーワード: ライフスタイル, 中学生, ICT

1. 研究背景と目的

中学生でスマートフォン(以下、スマホ)を持たせる、また多く利用している子の親の特性を「中学生の ICT 利活用Ⅰ スマートフォン編」で明らかにした。その報告では「子がパソコンを利用する親の考え」が子のスマホの利用多寡に関連しており、また中学生のパソコン・タブレット利用は GIGA スクール構想が本格始動した 2021 年から大幅に増えている[1]。本稿では、中学生のパソコン・タブレット利用の多寡とその親の特性を明らかにし、スマホとの比較を行う。

2. 調査概要

調査時期: 2022 年 11 月 調査方法: 訪問留置法

対象: 関東 1 都 6 県 中学生とその親

標本抽出方法: QUOTA SAMPLING

性・子の年齢・都市規模で割付 サンプル数: 201

3. 分析方法

パソコン・タブレットの家庭での利用の程度により 3 群(1 群: 利用しない 30%、2 群: 低利用 40%、3 群: 高利用 30%)に分け、これを目的変数とし、数量化理論第Ⅱ類で分析を行う。なお、低利用と高利用は利用時間の分布により、1 時間を閾値とした。また、説明変数は親の属性、子の ICT 機器の利用に対する考え方、親の ICT 利活用状況など 9 項目とした。

4. 分析結果

判別グラフ及び各群の平均点より 1 群(未利用)が正の方向、2 群(低利用)及び 3 群(高利用)が負の方向に傾いた為、1 軸は中学生のパソコン・タブレット利用層を判別する軸と解釈した。なお、判別率 87.1%、相関比 η^2 は 0.22、寄与率は 57.4% (2 軸は相関比 η^2 0.16、寄与率 42.6%)。図 1 は偏相関係数の高い順に説明変数のカテゴリースコアを示したものである。パソコン・タブレット利用者の親の特性は、「子が ICT を利用することに期待すること」が多方面であり、「親の年齢」が高く、「親のネット利用時間」が長く、「子が ICT を利用することで親が心配すること」が少ない。なお「子が ICT を利用することに期待すること」は、9 つの質問項目から

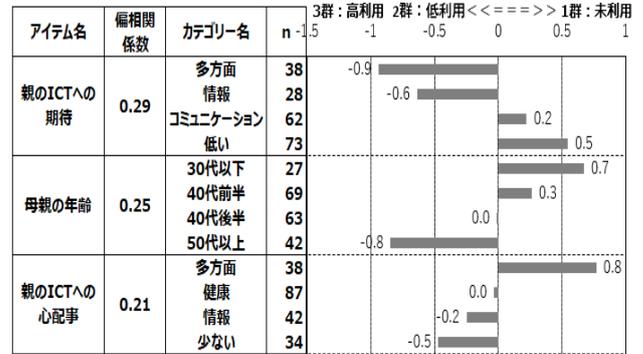


図 1:1 軸カテゴリースコア (偏相関係数上位)

表 1: スマホ、パソコン・タブレットの利用が多い子の親の特性

	スマホが多い	パソコンが多い
子が ICT を利用すること で親が期待すること	コミュニ ケーション	多方面
子が ICT を利用すること で親が心配すること	—	少ない
親の年齢	低い	高い
親のネット利用時間	長い	—

因子分析を行い「情報」「コミュニケーション」「学習」を抽出し、その後クラスタ分析を行った結果、4 クラスタ(多方面、情報、コミュニケーション、低い)に分けたものを変数として採用した。パソコン・タブレット利用層は全体に期待が高いか、情報のみに期待するスコアが高い結果となった。

5. 考察

本稿の結果と「中学生の ICT 利活用Ⅰ スマートフォン編」の結果を合わせて見たものが表 1 である。スマホとパソコン・タブレット利用の特性で共通している項目がない。つまり、機器によって親の特性が異なることが示唆された。特に親の年齢は反対の特性が見られ、親のライフイベント(特にスマホ普及期をいつ迎えたか)と関連している推察する。

参考文献

[1]NTTドコモ モバイル社会研究所
<https://www.moba-ken.jp/project/children/kodomo20220511.html>
(2022 年 5 月 11 日)